

第3回附特セミナー

大分県スクールカウンセラー 佐藤 百合子氏をお招きし、『アセスメントを通じた児童生徒の理解と支援～実践事例をもとに～』と題して、第3回の附特セミナーを行いました。

はじめに、アセスメントについて再確認、自己理解するところからはじまり、具体例を交えながらアセスメントについてお話がありました。



アセスメントとは

苦戦している子どもの状況について、情報を収集し、意味づけすることにより、子どもへの教育的働きかけに関する判断を行うための基礎資料を提供するプロセス

【石隈利紀「WSC—Ⅲアセスメント事例集」より】



心理教育アセスメントとは子どもの発達や環境に関する情報を収集し意味づけする（編集する）（自己理解）過程を通して、心理教育的援助サービスに関する判断（自己決定）を行う資料を提供する。

【石隈利紀：K-ABC アセスメント学会】

支援者だけでなく、自分（当事者）でも意味づけしていく、自己決定も含まれている所が新しいポイント



教育現場において必要なのは



目的

子どものよりよい成長・発達に役立てるための情報収集をすること

収集すべき情報とは

1. 子どもの状態（臨床）像
2. 子どもの現在の課題や困難（主訴）
3. 課題解決の糸口についての仮説

＜教育的アセスメントの約束事＞
アセスメント結果は、治療・教育に具体的な道しるべを与えなければならぬ



アセスメントの方法

＜情報収集の方法＞

○ 聞き取り



*本人からの話も大事

○ 諸検査



*子どもの何ができて、何ができないかをみるため、検査の組み合わせが大事

○ 行動観察



学習場面、学習以外の場面

参加者の方の声



行動観察の視点や見つかった困りをどう支援していくか、事例をふまえて知れてよかったです。

アセスメントについて、事例も交えてわかりやすく説明していただいたので、実践に生かせそうです。



児童生徒をみる視点をたくさんいただきました。

事例の話を通して、WISCの結果を具体的にどのように支援につなげていくのかや、自己理解につなげていく取り組みがよくわかりました。



小学校、中学校、支援学校から参加された皆様から多くの感想、今後取り上げてほしいテーマなどについてご意見をいただきました。今後の附特セミナーに反映させていただきたいと思います。ありがとうございました。

